令和７年度
第２回東毛地区人権教育指導者研修会

【人権講演会】
落語で気がつくアンコンシャスバイアス

【落語演目】
それぞれのハラスメント

【講師】
落語家　桂　三四郎　氏

令和７年度第２回東毛地区人権教育指導者研修会を１２／６（土）に、明和町の日本キャンパックホールで、東毛地区の各市町人権教育組織員、社会教育関係者、学校教育関係者、人権教育に興味のある方を対象に開催しました。

「アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）」をテーマに落語家の桂三四郎氏から御講演いただきました。「日常生活の場面で、年齢、性別、習慣などを判断要素にしていることが差別やハラスメントにも関連してくる。」こうした問題を小噺を通じて、お話していただきました。

落語という視点から人権について考える機会となり、参加した皆様にとっても笑いの中に、「気付き」そして「学び」のある会となりました。

【参加者の声】

○初めて聞いた言葉「アンコンシャスバイアス」。この研修会がなければ知りませんでした。
○笑いながら勉強でき大変有意義な時間を過ごすことができました。相手のことを考える大切さを改めて感じました。
○自分の価値観で物事を進めるのではなく、相手、周りの方々と一緒に進める時の考え方や行動を、改めて見直す必要があると感じました。考えさせられる、とても有意義な研修となりました。
○仕事でコミュニケーションのキャッチボールができていないと感じました。講師の話にあったように、相手が気持ちよく感じるような対応を心がけようと思います。
○アンコンシャスバイアスをなくすためには、直接のコミュニケーションが重要であり、「相手への気遣い」と「自分の心と身体の健康」であると学ぶことができました。

主催　東毛地区人権教育推進連絡協議会　共催　群馬県教育委員会　後援　明和町教育委員会